

内 容

1. 「海と船の企画展」への支援（19館19企画展）

支援金合計額：35,010,427円

①名 称：企画展「荒波を越えて一海を行き交う人と物」

主催者：神戸市埋蔵文化財センター

開催時期：平成20年10月11日（土）～11月30日（日）

場 所：神戸市埋蔵文化財センター

内 容：四周を海に囲まれた日本列島に住む私たちは、海を媒介として東アジア世界や列島各地と様々な交流をしてきた。一方、神戸市は瀬戸内海に面し、海を玄関口にして様々な文物が行き交い、古代大輪田泊から近世兵庫津に至る港の修築と発展は、現在の神戸港の礎となっている。企画展では、海を介した2,000年余の交流を、文物を通じて、神戸の歴史を紹介した。

支援金額：387,000円

②名 称：企画展「利根川下流域の和算文化」

主催者：千葉県立中央博物館 大利根分館

開催時期：平成20年5月31日（土）～6月29日（日）

場 所：千葉県立中央博物館 大利根分館

内 容：河川・水上交通の発達した江戸時代の東下総地方へは、さまざまな知識人が訪れ文化の種をまいていった。中でも和算はこの地方に大きく花開いた分野の学問である。企画展では利根川水運を媒体として広まった常総地方の和算文化について、伊能忠敬のように和算を測量や天体観測などへと広げていった地域の和算家などの例から紹介した。

支援金額：1,260,000円

③名 称：企画展 南薩摩「海上の道と陶磁器」

主催者：南さつま市坊津歴史資料センター輝津館

開催時期：平成20年8月8日（金）～11月5日（水）

場 所：南さつま市坊津歴史資料センター輝津館

内 容：日本本土の西南端に位置する南薩摩には、中・近世の時代、海上の道をつたって国内外から多種多様な陶磁器がもたらされた。企画展では、わが国の南玄関口にあたり、海上物流の中継地として重要な役割を担った南薩摩に残された貿易陶磁（海岸採集品・遺跡出土品・伝世品）等について紹介した。

支援金額：870,000円

④名 称：企画展「房総の捕鯨」

主催者：千葉県立安房博物館

開催時期：平成20年7月19日（土）～9月7日（日）

場 所：千葉県立安房博物館

内 容：企画展では南房総地域の捕鯨の歴史に焦点を当て、特に江戸時代に鋸南町を捕鯨基地とした醍醐組から、現在県内で唯一捕鯨を行っている南房総市和田の外房捕鯨株式会社までの歴史の変遷を辿り、地元産業を振り返り広く紹介した。

支援金額：1, 172, 525円

⑤名 称：マリンサイエンスギャラリー「東洋のガラパゴスー小笠原諸島の海の生きものー」

主催者：千葉県立中央博物館分館 海の博物館

開催時期：平成21年2月21日（土）～3月15日（日）

場 所：千葉県立中央博物館分館 海の博物館

内 容：世界自然遺産候補地である小笠原諸島で見られる鯨類・ウミガメ・海鳥の生態など、さまざまな海の生きものを紹介し、併せて千葉県をはじめとする日本温帯域と比較しつつ小笠原諸島固有種の紹介も行った。

支援金額：1, 084, 629円

⑥名 称：企画展「青函連絡船なつかしの百年～海峡を渡る船と人」

主催者：青森県立郷土館

開催時期：平成20年5月16日（金）～7月6日（日）

場 所：青森県立郷土館

内 容：平成20年は青函連絡船就航100周年の節目の年であった。青函連絡船はわが国における明治期以降の近代化に貢献をしてきたとともに、その発着する港町である青森市及び函館市の発展にも大きな役割を果たしてきた。また、青函連絡船が津軽海峡から姿を消してちょうど20年目となるので、青函連絡船の記憶を風化させないために、その足跡を写真や映像資料、歴史資料をもとに紹介した。

支援金額：2, 431, 548円

⑦名 称：企画展「近代日本商船隊の全容」

主催者：神戸大学大学院海事科学研究科海事博物館

開催時期：平成20年7月18日（金）～10月3日（金）

場 所：神戸大学大学院海事科学研究科海事博物館
内 容：明治以降太平洋戦争終結までの間に就航した500総トン数以上の日本籍商船全船の行動記録をまとめた「山田早苗コレクション」を基に、近代日本商船隊の変遷をたどりながら全容を紹介して、日本商船の働きを懐古すると共に役割を再認識する機会を提供した。
支援金額：2,850,000円

⑧名 称：企画展「ひとと海のものごたりに」
主催者：北九州市立自然史・歴史博物館
開催時期：平成21年3月1日（日）～3月15日（日）
場 所：北九州市立自然史・歴史博物館
内 容：わたしたちの住む日本は四方を海に囲まれた島国、日本列島に住んだひととは、古より海からめぐみを得て生活し、また海に船を浮かべて新しい世界へと漕ぎ出してきました。古よりひとびとは海を恐れながらも、大切にし、敬ってきました。企画展では人と海のかかわり、そして海から得られる「幸」について、人間界と自然界の両方の視点から紹介しました。
支援金額：1,460,000円

⑨名 称：企画展「蜃気楼の神秘を探る」
主催者：小樽市総合博物館
開催時期：平成20年4月29日（火）～8月18日（月）
場 所：小樽市総合博物館
内 容：主に海面上・湖面上で発生する上位蜃気楼は、限られた地域で稀にしか見られない不思議な現象で、砂漠などで頻繁に見られる下位蜃気楼よりも珍しい現象である。江戸時代には、伊勢湾や富山湾など日本各水域での観測記録があり、多くの古い文献、古美術工芸品などが今に残されている。小樽沖の石狩湾でも江戸時代に蜃気楼が観測されたという記録が残されていて、現在でも観測されている。企画展では、海の町・小樽の珍しい自然現象・蜃気楼を糸口として、蜃気楼にゆかりのある地域や博物館と連携し、日本の各水域で観測される「神秘的な海の現象・蜃気楼」を科学的な面と歴史的な面の双方の視点で紹介した。
支援金額：1,018,875円

⑩名 称：企画展「絵図で見る漁のあゆみ ―1 明治・大正編 2 昭和前期編 3 昭和後期編―」
主催者：焼津市歴史民俗資料館

開催時期：平成20年5月30日（金）～平成21年2月22日（日）

場 所：焼津市歴史民俗資料館

内 容：漁業のまち焼津。明治から昭和にかけて、焼津地区でおこなわれた漁業の変遷をたどりながら、海・船・その生業を振り返り、同館で所蔵する「焼津漁業変遷絵図」を展示紹介した。絵図は漁業の町焼津に生まれ、漁業一筋に生きた故鈴木兼平氏が、漁師を引退した昭和58年から漁業作業の風景を描いた水彩画。焼津漁業の変遷を知るうえで重要な絵画資料のうちの約100点を展示した企画展では、明治・大正編、昭和前期編、昭和後期編の3部構成から成り、展示替えをおこないながら、焼津の漁業の発展の変遷を紹介しました。

支援金額：622,980円

⑪名 称：企画展「北上の清水物語」

主催者：北上市立博物館

開催時期：平成20年9月1日（月）～11月10日（月）

場 所：北上市立博物館

内 容：生命の源であり、私たちの生活と深くかかわって来た湧水（清水）にまつわる史実、伝承、習俗、生業、生きもの等について調査し記録・保存したものを紹介し、併せて貴重な資源である水の健全な循環システムとその保全、回復について理解促進をした。

支援金額：900,165円

⑫名 称：開館20周年記念特別展 軻まるごと博物館「坂本龍馬といろは丸事件」
～船を沈めたその償いは金を取らずに国をとる～

主催者：福山市軻の浦歴史民俗資料館

開催時期：平成20年10月17日（金）～11月24日（月）

場 所：福山市軻の浦歴史民俗資料館

内 容：坂本龍馬率いる海援隊の蒸気船「いろは丸」が軻沖で紀州藩の明光丸と衝突し、軻の浦で談判が行われた。日本初の蒸気船同士の事故であった。その結果、万国公報に基づき龍馬は紀州藩から多額の賠償金を得て、龍馬や海援隊の名前が世間に知れ渡った。企画展では、いろは丸と明光丸の衝突事故の全容を明らかにし、御三家の紀州藩を脅かした龍馬の決死の談判に関する資料を中心に、1988年、1989年、2006年、いろは丸の水中調査で引き上げられた遺物や、龍馬をしのぶ遺品・写真などを展示紹介した。

支援金額：5,357,360円

⑬名 称：企画展「毛利氏 VS 天下人—瀬戸内の戦乱、そして平和—」

主催者 : 広島県立歴史博物館

開催時期 : 平成21年2月20日(金)～3月15日(日)

場 所 : 広島県立歴史博物館

内 容 : 天下統一をめざす織田信長と中国地方の覇者毛利氏、両者の水軍が石山本願寺の攻防をめくり刃を交えたとき、瀬戸内の人々も戦乱に巻き込まれ、豊臣秀吉・徳川家康と天下人が変わる中で、さまざまな運命に翻弄されていった。企画展では、日本の歴史上最も関心が高い信長・秀吉・家康たち天下人の統一事業に、毛利氏や村上水軍を中心に瀬戸内の人々がどのように対応したかを紹介し、戦乱の時代に生きる人間像を明らかにした。

支援金額 : 3, 848, 960円

⑭名 称 : 企画展「備前の徳利、海の道をゆく」

主催者 : 備前市歴史民俗資料館

開催時期 : 平成20年8月30日(土)～10月19日(日)

場 所 : 備前市歴史民俗資料館

内 容 : 備前焼の徳利は「お酒の風味が変わらない」ということで、すり鉢等と共に、全国で愛用されていた。特に桃山から江戸時代にかけて製作された徳利は、窯変のすばらしさもさることながら、変わった徳利が多く花生け等としても使用され、江戸時代には備前焼徳利は保命酒の容器としても流通した。保命酒は他の酒よりも一段格上とされ、備前焼等高価な容器に詰められ、藩の御用酒として全国の高貴な方々への贈答品として使われた。企画展では海の道をキーワードに岡山以外の地域の大都市で出土した備前焼徳利を中心に展示し海上交通を使って備前から全国へ、備前から鞆を經由し全国へという流通過程を復元した。また、今日まで愛されている備前徳利の変遷とその魅力を紹介した。

支援金額 : 1, 227, 425円

⑮名 称 : 企画展「みさき公園灯台展」

主催者 : みさき公園

開催時期 : 平成20年6月26日(木)～平成21年3月15日(日)

場 所 : みさき公園

内 容 : 日本最初の洋式灯台起工140周年を記念し、46年の歴史をもつみさき公園観光灯台にある数種類のレンズの歴史や仕組みを紹介するとともに、これをきっかけにあまり人々に知られていない灯台に関する様々な知識や人と灯台との関わりについて紹介した。

支援金額 : 1, 467, 570円

⑩名 称：企画展「自然災害をのり越えて―利根川中流域の土木遺産から見える歴史―」

主催者：千葉県立関宿城博物館

開催時期：平成20年10月21日（火）～11月30日（日）

場 所：千葉県立関宿城博物館

内 容：関東平野を流れる利根川は幾度も洪水を繰り返し、その猛威は人々を震撼させた。江戸幕府は利根川をはじめとする河川の改修を行い、度重なる洪水に苦心しながらもその治水に努めた。明治政府以降では、近代的技術を背景に大規模な利根川治水計画が練られ改修工事を進める一方で、予測を超える洪水の度に計画の見直しを図り、洪水から人々を守る今日の利根川治水が確立して行き、治水事業の発展とともに用水路整備、新田地の開発、水運の整備など流域の利水事業も発展を遂げ、今では首都圏を含めた広大な水資源活用が図られるとともに、人々に大いなる恵みを与えた。企画展では、これら近世以降の利根川流域での洪水の歴史とそこに遺された土木遺産をとおして、人々が利根川の猛威といかに向き合い乗り越えてきたかを紹介した。

支援金額：1, 190, 000円

⑪名 称：企画展「絵図が語る みなと新潟」

主催者：新潟市歴史博物館

開催時期：平成20年9月20日（土）～11月3日（月）

場 所：新潟市歴史博物館

内 容：江戸時代以前、船は棧橋や岸壁などの施設だけでなく、入江や海岸、河口、川岸など自然の地形を生かして碇泊しました。なかでも大河川の河口は重要な「みなと」で、新潟や沼垂の「みなと」は信濃川・阿賀野川の河口でした。そのため、この「みなと」は、二つの大河の流路や流量の変化によって大きな影響を受け、その姿を変えてきました。企画展では、江戸時代から新潟町・沼垂町の人々が重要な資料として保管してきた大型絵図を中心に展示して「みなと」の変遷を紹介し、併せて開港140周年を迎えた港町新潟の歴史を紹介した。

支援金額：3, 442, 900円

⑫名 称：企画展「厚田と海の道」

主催者：石狩市教育委員会

開催時期：平成20年8月5日（火）～10月31日（金）

場 所：石狩市厚田資料室

内 容：石狩市厚田区は、鯨の千石場所として知られ、厚田で獲れた鯨は、海の交通路を経て本州に送られた。企画展では鯨漁業における厚田と日本海交易ルートや厚田が育んだ著名人など、厚田と海の道の関わりについて資料をおし紹介した。

支援金額：1, 228, 500円

⑱名 称：企画展「仲松弥秀がみたうるまジマ～海と村の神々の信仰～」

主催者：うるま市立海の文化資料館

開催時期：平成20年11月1日（土）～12月28日（日）

場 所：うるま市立海の文化資料館

内 容：平成20年は沖縄の地理学の父・仲松弥秀がこの世に誕生に100年目であった。仲松は、うるま（サンゴ礁がちな琉球という古語の意味）のジマ（村落の意味）を歩き、村落の形態と祭祀を解き明かした。うるま市やその周辺の研究所等の施設では、仲松弥秀が記録した調査ノートや写真等を非公開で保管している。企画展では、地理学者の仲松弥秀がみた沖縄の海と村の神々の信仰にまつわる資料を公開し、沖縄の海洋文化に焦点をあて、海からみた沖縄文化を紹介した。

支援金額：2, 229, 000円